

「コミカル版日本の神話・国譲り」

作・渡辺かずのぶ

オオクニヌシ	男神（国津神）
アマテラス	女神（天津神）
コトシロヌシ	男神（国津神）
アメノホヒ	男神（天津神）
アメノワカヒコ	男神（天津神）
シタテルヒメ	女神（国津神）
タカミムスビ	男神女神区別なし（天津神）
タケミナカタ	男神（国津神）
タケミカズチ	男神（天津神）
アメノトリフネ	男神（天津神）

高天原（たかまがはら）、天上世界。

アマテラスが立っている。

アマノホヒが入ってくる。

アマノホヒ 母上、御用でしょうか？

アマテラス アミノホヒ、地上世界をご覧ください。

アマノホヒ 葦原中国（あしはらのなかつくに）ですか？

アマテラス そうです。

アマノホヒ どれどれ……。

アマノホヒ、片手を額にあて、眺めるしぐさ。

アマノホヒ おお、なかなか賑わっておりますな。葦原中国の

オオクニヌシは、なかなかやりますな。

アマテラス 今ではずいぶん皆から崇（あが）められているよう
うです。

アマノホヒ まあ、そうでしょうなあ。

アマテラス アミノホヒ、地上世界に天上世界の統治を取り入
れば、もっと葦原中国は栄えると思いませんか？

アメノホヒ いやあ、今のままで十分でございましょう。

アマテラス いえ、天上世界の統治を取り入れれば、もっと栄えます。

アメノホヒ ……。

アマテラス (威圧的に) 栄えますよね？

アメノホヒ (仕方なく) ええ、栄えますね。

アマテラス ほちい。

アメノホヒ えっ？

アマテラス 地上世界がほちい。

アメノホヒ いやいやいやいや、母上、ほしいと言われましても、今はオオクニヌシが統治しておりますし。

アマテラス オオクニヌシは地上の神です。天上の神、アマテラスのほうが偉いですよね？

アメノホヒ ……。

アマテラス (威圧的に) 偉いですよね？

アメノホヒ (仕方なく) 偉いと思いますね。

アマテラス アメノホヒ、これから、あなた、使者となり、オオクニヌシに天上世界に地上世界の統治を譲るように伝えな

さい。

アメノホヒ オオクニヌシに、国をこちらに譲れと言うんですか!?

アマテラス そうです。

アメノホヒ いや、しかし、そのような話をオオクニヌシが飲むとは思えませんが……。

アマテラス このアマテラスの命（めい）でもですか？

アメノホヒ ……。

アマテラス 私は天上の八百万（やおよろず）の神々を従えているのです。嫌とは言わせません。

アメノホヒ 本気で申されているのですか？

アマテラス 本気です。

アメノホヒ 母上、その役目、私には重すぎます。

アマテラス アメノホヒ、何を弱気になっているのです。あなた、私の息子ですよ。堂々として行ってきなさい。

アメノホヒ （ため息）はあ……。

アマテラス はい、支度して、とっとと行く。

アメノホヒ だめだ、母上には逆らえん。

アメノホヒ、去る。

アマテラス 真（しん）に崇（あが）められるべきは、私なの
です。

アマテラス、去る。

葦原中国（あしはらのなかつくに）、地上世
界。出雲の宮殿。

オオクニヌシが入ってくる。

コトシロヌシ、入ってくる。

オオクニヌシ コトシロヌシ、何の用か？

コトシロヌシ 父上、天上世界より使者が参っております。

オオクニヌシ 高天原（たかまがはら）から使者？

コトシロヌシ はい。

オオクニヌシ お通しせよ。

コトシロヌシ かしこまりました。

コトシロヌシ、アメノホヒを連れて戻って
くる。

アメノホヒ お初にお目にかかります。高天原（たかまがはら）のアメノホヒと申します。

オオクニヌシ おお、よくぞ参られた。

アメノホヒ この度は……。

オオクニヌシ ？

アメノホヒ この度は……。

オオクニヌシ どうかなされましたか？

アメノホヒ この度は、母、アマテラスの命（めい）を受け、やって参りました。

オオクニヌシ おお、ご使者は、アマテラス様のご子息か。

アメノホヒ はい。

オオクニヌシ アマテラス様の命とは？

アメノホヒ ……。

オオクニヌシ ……。

アメノホヒ 申し上げます。この葦原中国の統治、天上世界に

委（ゆだ）ねよ、とのことです。

オオクニヌシ 委ねよ、とは？

アメノホヒ 国を……、この地上世界を譲っていただきたいという事です。

コトシロヌシ 今、何と申された!?

オオクニヌシ コトシロヌシ、落ち着け。

コトシロヌシ いや、しかし!

オオクニヌシ アマテラス様が、そうおっしゃられたのか?

アメノホヒ はい……。

オオクニヌシ ご使者殿、それを、はい、わかりました、と私が答えられるかと思うか?

アメノホヒ ……。

オオクニヌシ この葦原中国（あしはらのなかつくに）は、わたしが出雲から国を發展させ、今や百八十神（ももやそがみ）の地上の神が統治している。

アメノホヒ わかっております。

オオクニヌシ 数え切れぬ地上の神が、このような命に従うとは思えん。

アメノホヒ ……。

コトシロヌシ 父上、いくらアマテラス様の命と言えどもこのような横暴な申し出、すぐにお断りなさいませ!

オオクニヌシ 断ったらどうなる?

アメノホヒ ……。

オオクニヌシ 少し時間をくれ。とてもすぐに即答などできぬ。

アメノホヒ はい……。

アメノホヒ、去る。

コトシロヌシ 父上、すぐにあのような使者、追い返すべきです。

オオクニヌシ コトシロヌシ、それはできぬ。

コトシロヌシ なぜです！

オオクニヌシ 戦（いくさ）になってしまふ。

コトシロヌシ 戦？

オオクニヌシ この話を断れば、天上の八百万（やおよろず）の神々がアマテラス様の命を受け、地上世界に攻めてくる。

コトシロヌシ ……。

オオクニヌシ 天上世界の神々と地上世界の神々で戦になるぞ。

コトシロヌシ 父上……。

オオクニヌシ それだけはあつてはならぬ。神々同士で戦など

ありえん！

コトシロヌシ そのようなことになれば、この世の終わりじゃ……。

オオクニヌシ コトシロヌシ、この話、絶対に外に漏らすな。
大変な騒ぎになる。

コトシロヌシ はっ！

オオクニヌシ、コトシロヌシ、去る。

高天原（たかまがはら）。

アマテラス、入ってくる。

アメノワカヒコ、入ってくる。

アメノワカヒコ アマテラス様、お呼びでしょうか？

アマテラス アメノホヒを地上世界に遣わしましたが戻ってきません。オオクニヌシを説得しているとのことですが……。

アメノワカヒコ はい。

アマテラス これでは話が進みません。あなた弓と矢を持って、オオクニヌシに再度、天上世界の統治を私に譲るよう

に説得しにいきなさい。

アメノワカヒコ 弓と矢を持って……。

アマテラス こちらの本気だということをオオクニヌシに伝えるためです。

アメノワカヒコ かしこまりました。

アマテラス、アメノワカヒコ、去る。

出雲の宮殿。

オオクニヌシ入ってくる。

アメノワカヒコ、弓矢を抱えて来る。

オオクニヌシ おお、アマテラス様のご使者か。

アメノワカヒコ オオクニヌシ様、わたくし、アメノワカヒコと申します。仔細（しさい）はアメノホヒよりお聞きになっているかと思えます。ご返答はいかに。

オオクニヌシ 思案しているところだが、なかなか答えが見出せぬ。

アメノワカヒコ おいそれと簡単に行くことではないと思いま

ですが、アメノホヒがこちらに来てから、もう三年です。もうご回答をいただきませんかと……。

オオクニヌシ 弓矢をお持ちか。やはりな……。

アメノワカヒコ ……。

オオクニヌシ ひとつ提案がございます。

アメノワカヒコ 提案？

オオクニヌシ 私が国を譲ると申しましても、百八十神（ももやそがみ）が納得しなければ、地上世界の統治は難しいと存じます。そこで、私に娘がおりまして、天上の神のどなたかと婚儀をしていただき、私の娘婿に統治を委ねるということでしたら、百八十神も説得できるかもしれません。

アメノワカヒコ 婚儀？

オオクニヌシ シタテルヒメ、これへ参れ。

シタテルヒメ、入ってくる。

シタテルヒメに七色の照明が当たり輝く。

オオクニヌシ これが、わが娘、シタテルヒメでございます。

シタテルヒメ （お辞儀をする）

アメノウカヒコ おお、これは何とお美しい姫君か……

オオクニヌシ これをどなたか天上世界のお方と娶（めあ）わせたいと思うのですがいかがでしょうか？

アメノウカヒコ もうお相手は決まっていますのですか？

オオクニヌシ いえ、まだでございます。

アメノウカヒコ その天上世界の娘婿に葦原中国（あしはらのなかつくに）の統治を任せると？

オオクニヌシ 左様でございます。それであれば話も進められますでしょう。

アメノウカヒコ この話、持ち帰って、アマテラス様に相談いたします。

オオクニヌシ あなた様でも良いのですよ。

アメノウカヒコ えっ!？

オオクニヌシ あなた様が、このシタテルヒメと結婚していただいても私は構わないのですが……。

アメノウカヒコ ……。

オオクニヌシ いやはや、戯言（ざれごと）を申し上げました。アマテラス様に、よろしくお伝えください。

アメノウカヒコ その話、受けましょう。

シタテルヒメ えっ!？

アメノワカヒコ 私でも良いと申されるなら、その話、受けたいと存じます。

シタテルヒメ 私のような者が嫁でも良いのですか？

アメノワカヒコ もちろんです。むしろ至高の喜びです。あなたのようなお美しい方と夫婦（めおと）になれるなら。

シタテルヒメ 私もあなたのような方が夫なら、うれしゅうございます。

オオクニヌシ おお、それならば話が早い。すぐに婚儀の支度をいたしましょう。

アメノワカヒコ よろしくお願い致します。

シタテルヒメ、アメノワカヒコの手を取る。

アメノワカヒコ、うっとりしながら、シタテルヒメと共に去る。

オオクニヌシ ……これでひとまずはどうにかなるか。

オオクニヌシ、去る。

高天原（たかまがはら）。

アマテラスが駆け走ってくる。

アマテラス　タカミムスビ様ー！　タカミムスビ様ー！

タカミムスビ、入ってくる。

タカミムスビ　おお、どうした、アマテラス。

アマテラス　使者が戻って参りません！

タカミムスビ　使者？

アマテラス　二度目に送ったアメノワカヒコからは、8年も報告がありません！

タカミムスビ　アマテラス、落ち着け。まずは話を聞こう。

アマテラス　葦原中国（あしはらのなかつくに）に使者を送ったところ、誰も戻って来ないのですー！

タカミムスビ　葦原中国……地上世界か。

アマテラス　そうです。オオクニヌシという者が、地上世界を治めているのですが、その統治を私に譲るように、使者を立てたのですが……。

タカミムスビ 地上世界の統治をお前が……。

アマテラス それはそうです。皆が崇（あが）めなければならぬのは、地上世界の神ではなく、天上世界の私だと思っております。

タカミムスビ まあ、天から産んだ大地だが……。

アマテラス それはそうです。なので、国を譲るように伝えているのですが、まったく音沙汰（おとさた）なしなのです！

タカミムスビ うーん……。

アマテラス 私はもう、また天の岩戸に隠れて……。

タカミムスビ それはならぬ。お前は太陽の神だ。いなくなれば悪神がはびこる。

アマテラス どうすればよいのでしょうか？

タカミムスビ 地上世界で何が起きているのか、よくわからない。まずは調べさせよう。雉（きじ）を地上世界に遣わそう。

アマテラス、タカミムスビ、上手寄りに移る。

アメノワカヒコとシタルヒメが下手寄りに現れる。

アメノウカヒコ らんららーん！

シタルヒメ アメノウカヒコ様、今日のご機嫌ですこと。

アメノウカヒコ お前のような妻を娶（めと）れて、おれは毎日、幸せだー！

シタルヒメ まあ！

アメノウカヒコ 地上世界はなあ、アマテラスが治めようとしているが、あれは侵略以外の何物でもない。おれはお前を妻として百八十神（ももやそがみ）を率いて、葦原中国を統治する。この国はおれが守ってみせる。

シタルヒメ お前様、何と頼もしい。

雉（きじ）の鳴き声がする（SE）

アメノウカヒコ おっ、雉（きじ）がいるなあ……。

再び、雉の鳴き声がする（SE）

シタルヒメ 何やらおかしな鳴き方をしますね？

アメノウカヒコ そうか？

雉の鳴き声 (SE)

シタルヒメ 私には悪い鳥の鳴き方に聞こえます。射殺（いころ）してはいかがでしょうか？

アメノワカヒコ そうだな。お前が言うなら、きつと悪い鳥だろう。我が弓で射殺してしまおう。

アメノワカヒコ、矢を放つ。〈しぐさ〉

タカミムスビ よける、アマテラス！

アマテラス、タカミムスビ、上手にはける。

タカミムスビが出てくる。

タカミムスビ (矢を拾って) この矢は私がアメノワカヒコにやった矢ではないか！ もし、アメノワカヒコに罪あらば、この矢よ、当たれ！

タカミムスビ、矢を手で投げる。〈しぐさ〉

タカミムスビが投げた矢がアメノワカヒコに当た
る。

アメノワカヒコ うっ！ ぐぬぬぬぬ！

アメノワカヒコ、倒れる。

シタルヒメ お前様！ お前様ー！

タカミムスビ 裏切ったな、アメノワカヒコ！

シタルヒメ お前様ー！ 誰かー！

暗転。

出雲の国。

コトシロヌシ 父上ー！ 父上ー！

オオクニヌシ、入ってくる。

オオクニヌシ どうした、コトシロヌシ。

コトシロヌシ アメノワカヒコが！

オオクニヌシ アメノワカヒコがどうした？

コトシロヌシ 天上から降って来た矢に当たり、死にました。

オオクニヌシ 何！ 死んだだと！

コトシロヌシ はい！

オオクニヌシ まずい……。

タケミナカタが入ってくる。

タケミナカタ 父上！

オオクニヌシ おお、タケミナカタか。

タケミナカタ シタテルヒメから聞きましたぞ。葦原中国（あ

しはらのなかつくに）を天上世界の神どもが狙っているのだ

とか。誠にございますか？

オオクニヌシ 誠だ。国を譲るように使者を立てて来ておる。

タケミナカタ なぜ、そのような大事なことを私には話してく

れなかったのです。コトシロヌシの兄上は知っているではな

いですか！

オオクニヌシ お前は、地上世界の武神だ。天上世界の神々と戦われては困ると思ったのだ。

タケミナカタ 国を譲れ、とはすなわち、侵略ではないですか。そのような申し出はきっぱりと断られ、百八十神（ももやそがみ）とともに相手が天上世界の神々であろうと戦うべきです。

オオクニヌシ 八百万（やおよろず）の神と百八十神（ももやそがみ）で戦をすればどのようなことになるか、おぬしにもわかるだろ！

タケミナカタ ……。

オオクニヌシ わしはこの葦原中国に、繁栄をもたらすために兄神たちを追い払い、蛮族を追い払い、この国を統治してきたのだ。災（わざわ）いに見舞われるような国を作ってきたわけではない。

タケミナカタ では父上は、この地上世界の統治を、天上世界に言われるままに譲るおつもりなのですか！

オオクニヌシ そのようなことにならぬように、やるべきことはやってきた！

タケミナカタ 私はもし、父上が国を譲ると申されましても、

承諾しませんぞ。この国は、やすやすと天上世界に譲り渡すように、作ってきたものではない！

タケミナカタ、去る。

コトシロヌシ 父上……。

オオクニヌシ 神々同士で戦など起こしてはならぬのだ。

オオクニヌシ、コトシロヌシ、去る。

高天原（たかまがはら）

アマテラスがやってくる。

アマテラス タケミカズチ、アメノトリフネ、これへ。

タケミカズチ、アメノトリフネ、剣を携えて入ってくる。

アマテラス 天上世界の武神、タケミカズチ、アメノトリフ

ネ、これより葦原中国のオオクニヌシの元へ参り、国を天上世界に譲るように申し伝えるように。

タケミカズチ 断ってきた場合はいかなさいますか？

アマテラス 実力行使で構いません。武力をもって、葦原中国を制圧します。

アメノトリフネ かしこまりました。

アマテラス 行け！

タケミカズチ・アメノトリフネ はっ！

タケミカズチ、アメノトリフネ、去る。

アマテラス さあ、オオクニヌシ、どう出てくるか……。

アマテラス、去る。

葦原中国、出雲の宮殿。

オオクニヌシが入ってきて座る。

タケミカズチ、アメノトリフネ、入ってきて、

目の前に剣を置いて、座る。

オオクニヌシ 参られましたな。

タケミカズチ 高天原の武神、タケミカズチ。

アメノトリフネ 高天原の武神、アメノトリフネ。

オオクニヌシ 葦原中国の長（おさ）、オオクニヌシである。

タケミカズチ・アメノトリフネ ……。

オオクニヌシ ご用件をお聞きしよう。

タケミカズチ 高天原の最高神、アマテラス様は、葦原中国の

統治をご所望（しよもう）である。すみやかに国を譲り渡すように。

オオクニヌシ 断れば？

タケミカズチ、アメノトリフネ、目の前に置い

た剣を手取る。

アメノトリフネ 返答やいかに！

オオクニヌシ この葦原中国は、私の力だけで、統治してきた

ものではないです。私に二人の息子がおります。その二

人が承諾するなら、私も国譲りを承諾いたしましょう。

タケミカズチ 息子、二人が承諾すればよいのだな。

オオクニヌシ はい。

アメノトリフネ その息子とは？

オオクニヌシ コトシロヌシとタケミナカタ。

タケミカズチ あいわかった。

タケミカズチ、アメノトリフネ、立ち上がり、
去る。

オオクニヌシ ああ、怖かった……斬り殺されるかと思った。

オオクニヌシ、去る。

コトシロヌシ、釣竿を持って入ってくる。

舞台に座り、釣りを始めるコトシロヌシ。

アメノトリフネ、入ってきて、横に座る。

コトシロヌシ 私はいま、釣り竿を持っております。そちら

は、ぶっそうなものを持っておりますな。

アメノトリフネ 高天原のアメノトリフネじゃ。

コトシロヌシ アメノトリフネ様。

アメノトリフネ そなたの父に国を譲るよう言い渡したところ、二人の息子が承諾すれば譲ると明言された。コトシロヌシ、どうする？

コトシロヌシ 二人の息子が承諾すれば……なるほど。私は見
ての通り、戦は好みません。こうやって、平穩に釣竿を垂ら
しているのが性（しょう）に合っております。

アメノトリフネ では、国譲りを承諾されるか？

コトシロヌシ 承諾いたしましょう。

アメノトリフネ よし。

アメノトリフネ、去る。

コトシロヌシ おっと、かかった。これは大きい。大きいぞ。

コトシロヌシ、竿を引きながら去る。

タケミカズチ、現れる。

タケミナカタ、大岩を持って現れる。

タケミナカタ なんだ、お前は。

タケミカズチ 高天原のタケミカズチ。

タケミナカタ タケミカズチ、知らんなあ。

タケミカズチ おぬしがオオクニヌシの息子、タケミナカタ
か。

タケミナカタ そうだ。

タケミカズチ アマテラス様が葦原中国の統治をご所望だ。承
諾してもらおう。

タケミナカタ 断る！

タケミナカタ 天命（てんめい）であるぞ。

タケミナカタ わしらの国を、盗み取りに来て、何が天命か。
そのような命には到底従えん。

タケミナカタ、大岩を投げる。

タケミカズチ ならば仕方ない。力勝負と行こう。

タケミナカタ おれと勝負するとはいい度胸だ。

タケミカズチ、剣を置く。

タケミカズチ さあ、どこからでもかかってこい。

タケミナカタ じゃあ、遠慮なく。

タケミナカタ、タケミカズチにしがみつく。
相撲のような恰好。

タケミナカタ ぐぬぬ……。

タケミカズチ もっと、力を入れんか。

タケミナカタ ぐぬぬ……。

タケミカズチ ほれ。

タケミカズチ、タケミナカタを放り投げる。

タケミナカタ ふざけやがって！ もう一丁！

タケミナカタ、タケミカズチにまた挑むがすぐ
に投げ飛ばされる。

タケミナカタ、タケミカズチに何度も挑み、何
度も投げ飛ばされる。

タケミカズチ その程度か。タケミナカタ！

タケミナカタ うーん……。

タケミカズチ 国譲り、承諾いたせ！

タケミカズチ、劍を手に取る。

タケミカズチ 承諾せぬというなら殺すまでだ。

タケミナカタ ちよつと待った！ 力比べでとても敵（かな）

わぬとわかった。このおれがここまでこてんぱんにやられるのは初めてだ。国譲り、承諾する。わしは諏訪に行つて隠居する。だから命だけは助けてくれ。

タケミカズチ 手を焼かせおつて。諏訪へ行つておとなしくしておれ。

タケミナカタ ……。

タケミカズチ わしの気が変わらぬうちに去れ。

タケミナカタ、駆け走つて逃げる。

タケミカズチ、去る。

出雲の宮殿。

オオクニヌシ、入ってくる。

タケミカズチ、アメノトリフネ、やってくる。

アメノトリフネ オオクニヌシ、コトシロヌシは国譲りを承諾した。

タケミカズチ オオクニヌシ、タケミナカタは国譲りを承諾した。

オオクニヌシ わかりました。息子たちが承諾したというのなら、私も国譲りを承諾いたしましょう。そのかわり、私の住む所として、天の御子（みこ）が住むのと同じくらい大きな宮殿を建ててください。私はそこで隠居いたします。そうすれば百八十神（ももやそがみ）は、息子のコトシロヌシに従って、天に背くことはないでしょう。

アメノトリフネ その旨、アマテラス様にお伝えしよう。

タケミカズチ では国譲りは決まった。さらばだ、オオクニヌシ。

タケミカズチ、アメノトリフネ、去る。

オオクニヌシ　やはり天には勝てなかったか……。

オオクニヌシ、去る。

高天原。

アマテラスがやってくる。

タケミカズチ、アメノトリフネ、やってくる。

タケミカズチ　アマテラス様、オオクニヌシが、国をアマテラス様に譲ると約束しました。

アマテラス　よくやってくれました。

アメノトリフネ　オオクニヌシの最後の願いとして、天の御子が住むくらい大きな宮殿を建てて、そこで隠居させてほしいとのことですがいかがいたしますか？

アマテラス　オオクニヌシには力があります。その力を鎮めるためにも、その願い、聞き届けましょう。

アメノトリフネ　それでよろしいかと思えます。

アマテラス　これで地上世界はとこしえに、日出（い）づる国となりましょう。

タケミカズチ、アメノトリフネ、平伏する。

(幕)